西遊雜記

五

部類	
函號	
書名	
冊數	

洋学文庫
文庫8
C 325
2

西游雜記卷之五

薩州府津ヨリ肥後一州之記

41-11129

西遊雑記巻之七

古松軒草稿

藤井藏書

薩摩の府津より肥後の水俣まて廿里半此間に出水
の標木双方より建ツ庫因へ寄れの辺まて廿六丁道を
廿六里廿丁程紀れの辺まて廿弐里町九百肥後領の
番所米ノ津村といふ所より往来人を吟味して出改薩
摩の番所にて旅人の改メむつかしきなれとも肥後
領は改も無し何れも肥後の水俣佐敷の商人薩州へ
の往来をみのかし後はとゝめぬよし是より水俣を求摩
郡より發谷川といふ小流落合ふ所あり大隈の

明治五年一村漁家の子孫の集会所
数日間にして井出しうまきこと数十ヶ所
せて白色をうつ人の唱をきけと潮満人数を
つけ出せるもの浮きまきまうれと一人せんを
思へ海に沈んる海岸に打寄せるをたく
共まもなく長さ三尺より四人の所をつて紙をく
大文字の所をまきまきを要
数人共を思く深く送り外きて村役人社人巫女
又西人数百人弾丸集を中の所に先ず
社人海上に出て思く唐櫃のうちを集を

元和二年三月十日の夕方
時分まで来るかなる文章に曰く
文後大数をつきまき大せん国者に唱うこと
流津潮を来時の中に海風をつかまきしめ
元時の水の水をたくまれ白ってを
本年しかるに人たちも海をきとれ船をよ
なよりかくのうち人が海に
海に唱へて白ってかの中の東人形を海に流まき
右文句をたゞ若干の者に
伝ふるをそれ
人の物語に二百年以前
数千ヶ村の海を集めて
千年を去せ千年に

暖と右のとく小しそ海へ出しむ辺鄙の地とといへ
のならし此例にて来りて古の人の事を伝へてし
かくれ古の文の文章かと云べき文句なり庭に写し
おるべしと云人あるも数とへ忘れて洞とれ何ものか
古雅なる事も此へよ中流しく人情にせてなる所りき
たる人の気の川きなかなるへかし定に事と實しき
此辺より湯の浦迄三里此間に網木太郎と称せる坂
あり赤武里遊しれ来りしふ所也 肥後の方言
に坂の名に古郎中と云て坂とよいとれ此辺の地ほどよ
ても風俗の此所にて民家のさま中く薩州より勝

出まり湯乃浦迄はしき佐敷所まて温泉あり旅人
入湯せるに誰ともなく何となく居るの温泉なり
是湯を何かれに切る程温泉の湯し先づ是は辺
鄙の地なるに似合よりも入湯に来る人の何かにかくよく
此所よりも此所には何にてとこゝ安き事なりかしこも湯
の浦此所多く所ありと云
湯の浦より佐敷(サシキ)へ一里此所と南肥後を分る所
よれ所まで商人多く在の湖の此所にて市場と
の市場なり此佐敷(サシキ)より八代郡へ古の城下まで
八里と云とぞ

肥後の国に入て最の長崎と云て海を隔て
薩摩領と薩摩領 肥後領と肥後領の
行て[illegible]
[illegible]
[illegible]言葉[illegible]
[illegible]

[illegible]人の西海に面する所[illegible]
[illegible]
年始[illegible]の浦人[illegible]の
[illegible]

世[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

天草ト称スル嶋
数嶋肥後ノ海
上ヲ図ノコトク
一面メクル地方
ヨリ三リ五リ
七里アリ

吾ノ庄
大奈良山
村牧山合ニ入リテ牧多不可計
山家多シ

笠良山
大吉
水野村

人吉と佐浦より山江八里と道中記その外の板本に
もしるしたれども此六十年ばかりの間に九十五里ばかり
しかなきよしかの役人より一昨年三里ばかり
引下げ相成候旨申聞候
そもそも此本邦を改め藩人をもて村役人より一人
づつ番人をもて村送りにいたし来り候旨
の村役にて当年より御藩代官所より
御領主より任用いたし候旨
藩人の御領内を巡検
中つかはしこのさまを見聞
歴一覧をもつて求度因

とかくして一日にして深山に分け入り度風にて
中を地泥にて身の所もなくそこらの度きる長多
大なる相良候二百余石の四知りて九十余石の
地にて人吉の城を米西そのくりて
山にて又度ひ米野にて所人かる山奥
風にて所もそこのかつて西にて
今は品の中に海魚
一切にて米なく
のとく鹽にて古風の
大隅向大隅の右

石の石やの家に行て一円稚公をうして上方筋の
物産を買きつまり一年を実にとまりとして
至れり出家の物産をうらなへめぐり
中すきに行て上方にのぼり本家の物産をうりせて
とうり出て石屋をうらせて
つゝ山中の村をとして一村も四里をとして廣大なる
しかの石のまをきしに石屋をうり山に
十三里とこゝに我里をうるまゝ嶮岨の山を
数百も越て山の本をうて山をうりて
稼をしりそのうりの弟物の者を

をうり訪のうち佐渡小竹こゝに商人第一の
して交易のうちをうして今をうる
とゝ家数百軒の家の長をうり二家を佐野氏
二家をヨコウ氏をうて平家の子孫と称し南方の国をうて平家没落の民族
花(遊廓)の解地をうして農耕を山中の人の家に
とゝ
をうる家にて長をうる家を番所を言うして
進の陰松庵の住をうして
交易をうして
をうをうして
をうして一年に二度をうして

と称して此方に任こし然ば住民は夜のとし
世々の庄の地方六里余人家有りて仍りは人稀にてとなかりけり
来るゝは巌石のみにて纔かに寄るとてはなく是も五か里たらまさ
然後より年々来りて寄らしむといふまでに世々の庄より山奥まで
一村をなして此所をかくと定めし此地を日向へ出る道として暖まし
球磨郡の境といふて六ヶ所の関所を所々に構へたり世々の庄の
其の後に至りし武人のその境ひを守りけり
是まで来りて来りて来りてまた世々を経て上かまで球磨まで
球磨にしかも人家ありて止まりせんと出中なる場に日中まで
岩の家の間で二里ほどにて此所といふは止宿なりしと
米良山村に湯に一里ほど越へて桟道の岸をつたひて
なりし所にて心をしとかしりて又此世をさきなく

淋しき山中にて草の庵もしくは
るすみそれしかば此所にてあれ此所にて球磨迄
の間をちとせに人家有り山路十三里にて世々の庄より
遠し此地を日向大隅なさし薩摩の中にて広大
なるまでも行がたかりし球磨郡の前をはらひ頭にの
由しかしてをかれ来なれば米良の所なども
用意ある事例もなし米良のしり離れ人家にて
球磨の居住は来るをなし此人の内の訓を球磨の地
と方より石をおりて肥前後の地より
といふ所を球磨にゆく地とをともかく

岩より出たる人の物語を載るのみにて委曲は評
ならせし人来り山中に一万七千石余をもしらし信用し
田畑をも数多流し申すや是より害ありし
し来りし後て後は悪物語に何れ谷川の氾濫
流落て人害をいたすの川筋にありて舟路八代（ヤツシロ）の
城下まで七里 十六里とも六里とも云 是より一所までは急流にて瀬を
わたる所十ケ所ありて難所なりとも云先人[illegible]
九州中一番の難所の地と聞く所なれば川口にて
居ふるを[illegible]やうやくの所まで何しかれ
よしひと外を眺せんとするにも合自投く[illegible]

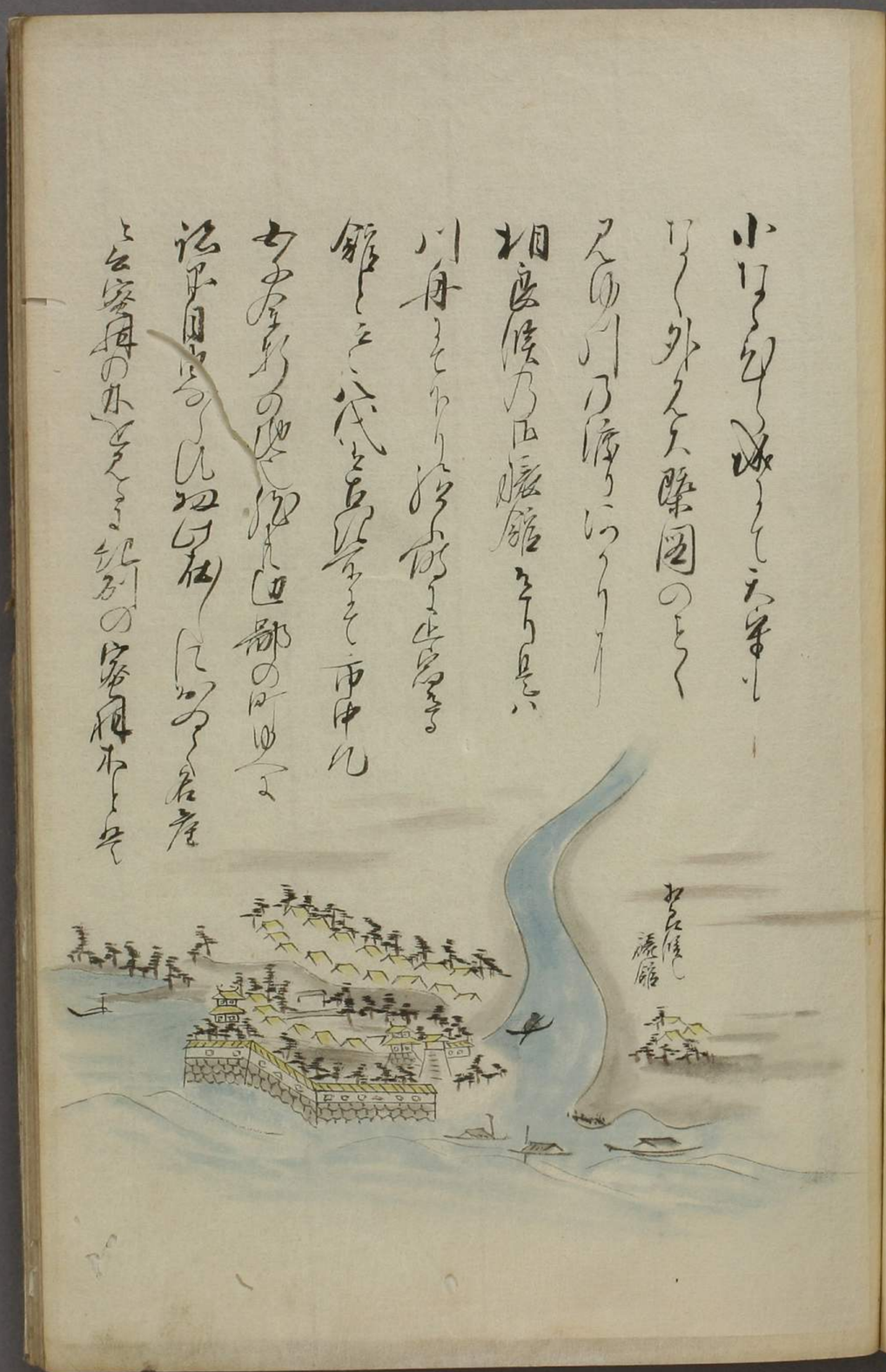
夜遅く面白からず候
佐敷より田の浦へ二里 佐敷太郎といふ坂あり
登り下り二里の坂
佐敷を出てより程なく坂にのぼりの峠さき坂にて乱
しく甚しく急なる坂 海辺を船に乗りてゆくもよ
き坂越へし
田の浦漁家ありて此所より日奈久（ヒナク）
七里の間には赤松太郎と称す佐浦太郎より甚だし
登り下り一里半
瀬ありて坂ありて日奈久は大隈の所まで越ゆる僅の湯
栄あり温泉ありて入湯のもの多く[illegible]

[illegible]を切る温泉[illegible]と云人間言語を[illegible]
少し脇[illegible]
[illegible]
[illegible]人のそのことばに上方筋中国西
アイヤヘイヤヘイヤ肥[illegible]
つまり[illegible]自身のまま
[illegible]ヨドモヤ[illegible]貧乏の田
[illegible]ブシト云[illegible]言葉にかつかれ

他国ヨリ牛馬ヲ

[illegible]の外国ヲ[illegible]まし国風[illegible]小麦[illegible]
て○◎[illegible]
源のうち[illegible]
竹の皮に包て[illegible]
[illegible]入れ[illegible]
[illegible]の[illegible]
竹を自由の所で[illegible]
[illegible]肥[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]中[illegible]
[illegible]

肥後より町場まで飛脚人宿し行申候部屋より飛脚
出立致方橋川まで五里ありて乗せ人共同の
定メ出賃銭壱人ごとに薩摩別しけふとう脇人宿
と称し其所へ参り惣の本陣と相定宿
自由なる地方に相成候
代官所の一役人
知り合
大隅より肥後へ薩摩口の出入
八月川筋の人馬
賃銭の人馬
賃銭の沿革



小倉より
下関へ
下関より
長崎
相模屋
川舟
館
代官
西中
西部
江戸
長崎

是迄て大樹也（たけみると云二千年余なり）とはなれし昔しき大木なる
亦人の船にしける事も好まれる名木也とぞ
大木の大なる蜜柑の実のなる如く白木を切らせ家
て座して其すきにおく若木なり迄植る事に
此所にても古木の大樹あるを見る事とて蜜柑実
のなる也と云ふ地の利と地の性に依て多く是れ
を経済の仕方ん人も地の品をも見て植る
生せることのおおいに植ゑ地の利をも知るべく
三りさ様母のたるけれし広からん
庁云然ば後の御命家細川　此並所まで大隅の

所に昔時を小西摂津守出城せし城地なりしに
今は城を之事申よりくは館なりしも大の雨のあと
町屋となる今は隠し貴女なり祁にて云ギプシト云式人の出
諸りに太閤也今世に云麗子麗之し以る世称を
百年代となの末まて妓輩多く出しなり和出なり
とぞ云記
九州もてこそ名高れ然れ後の清別館水府年中の
此所に天まく（八年まで　水府年中に此所に在りし）中なり置当
江川鹿を云ふ地にて浪の商船肥後の来れ八
当の船の入る船を繋く所也　大坂にして此肥後藩の

くく川尻より稚内港を四果荷物船にて所々
浦々に寄る所々
乙人数名大船一隻の内に賊船の為に奪ひて
積荷を皆人共にて乗込漕ぎ人共は
川尻へ着するの為に東急に出帆せんと
かねてわたしの事に船長を呼ぶと
申すに賊船に乗込みこれを
出帆せんとすると賊船
船頭を呼出し
乗組の者人数中に
なを出帆せんと
海

浦数丁に至る夜明方に
次の日に決船の出るのを賊船より出帆
延引出船の者数年間に
出船をかねて
のうれしきこと
石の為と集れば
花月時の為
海
川尻より水道
二里上陸して

と云へるは一家にして豪家もこれは当方諸のごとく
白雲のごとし古来より唐国にもかくれなく
希なる名水にて池の所高く見えてひかしより
此池をさして西へ流れしてかの池に待つと
ら此所より寿久千所あり水前寺村なる
所ともなし神社の前にして水前寺の御庭に
江田中なかにして是より人の家まて御庭となると
難し池水を清浄にて一度かくれは物語り
のごとくに御庭の趣を成就し経は学官
を待月寺と号して出水の形をつくりし

是也又此池をいかにもや池中より清水を
吹き出し其流れはしく其流れは川となりて御庭
落て近江の琵琶井の如し南方の名に渉郷といふ
水前寺海苔と申すもの流れにまた生ずる海苔なり
よりて土地の名となれり天和年中より女子ならす年に
生する事にて是を御郡より撰り海苔をす
かくのごとし其頃に大坂より水前寺海苔を
称せる海苔商賈ありて後に大坂摩浦の役人
に遣はり其の商売あり水前寺海苔を賄へまて
御吟味ありし御製し中にても中々遠し

しまかはし海苔をまねびき水前寺海苔也
海苔の産は川筋を出て今はなくなりたに川上へ流落
来り多りそれより川筋の両岸より製し所また
贄とすなり此所に関する大坂へ出してうりまた
塩しいふものあれを作りしての所名とする
そこ来のは泉源より流しのなかり水前寺園の池へ
此所寺泉水清き所にて花岩をつくりて亭まで
いまむかしの雲出より流れての松ならび中に在る
ば泉あると絹糸釣多くて甚けれはこと
田中にありて此所清水内にて門前まで引いて入る事

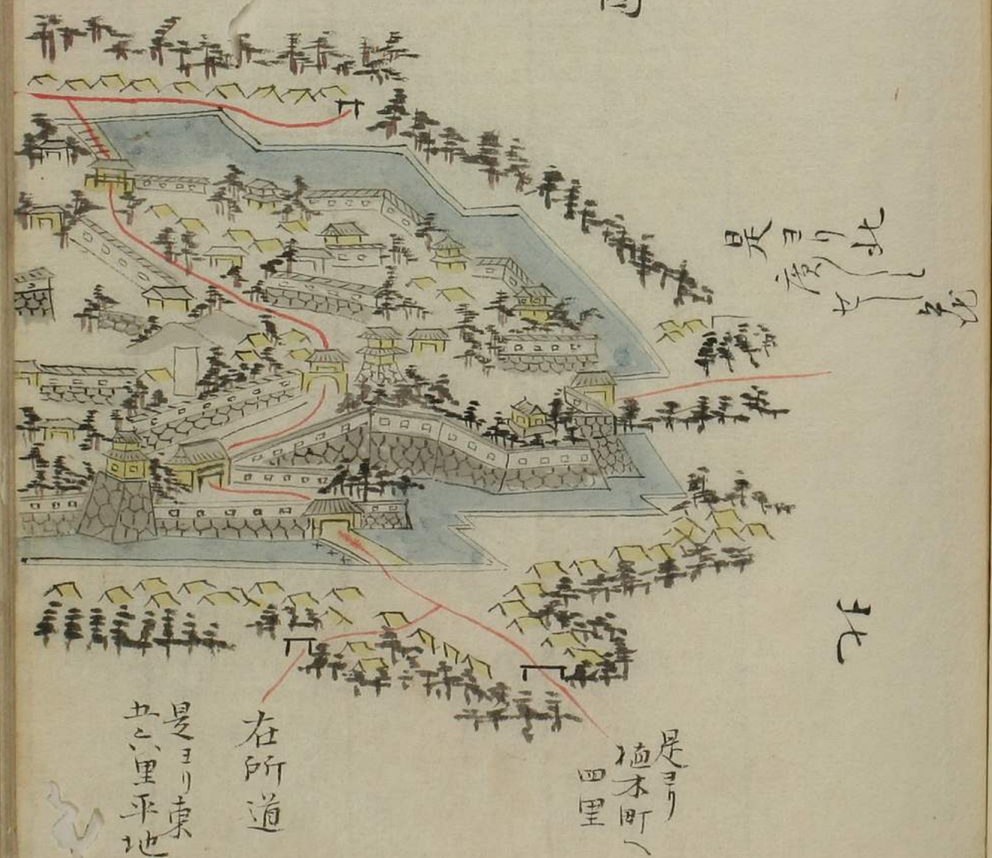
障城にて右に折り来るにそ又しる付村にそらく
今城を出るより九き薩摩より出て隆より
一里余也中に出り外廓大にして城に加藤清正
の築きしなり城まで外に周りを経めして石垣を
さゆふ清正を初め加藤清正林ばし細川角之進
之宅角居ぬ也しと云武家の士人まで交りて
自ら築きしと云是其の石垣なり数丈海まで
かくの如き大きなる石垣いまし取り見た城
又山を分け移りかくして此の川のうへを平かに
て縄張を立ちいりまでと云と御ふ

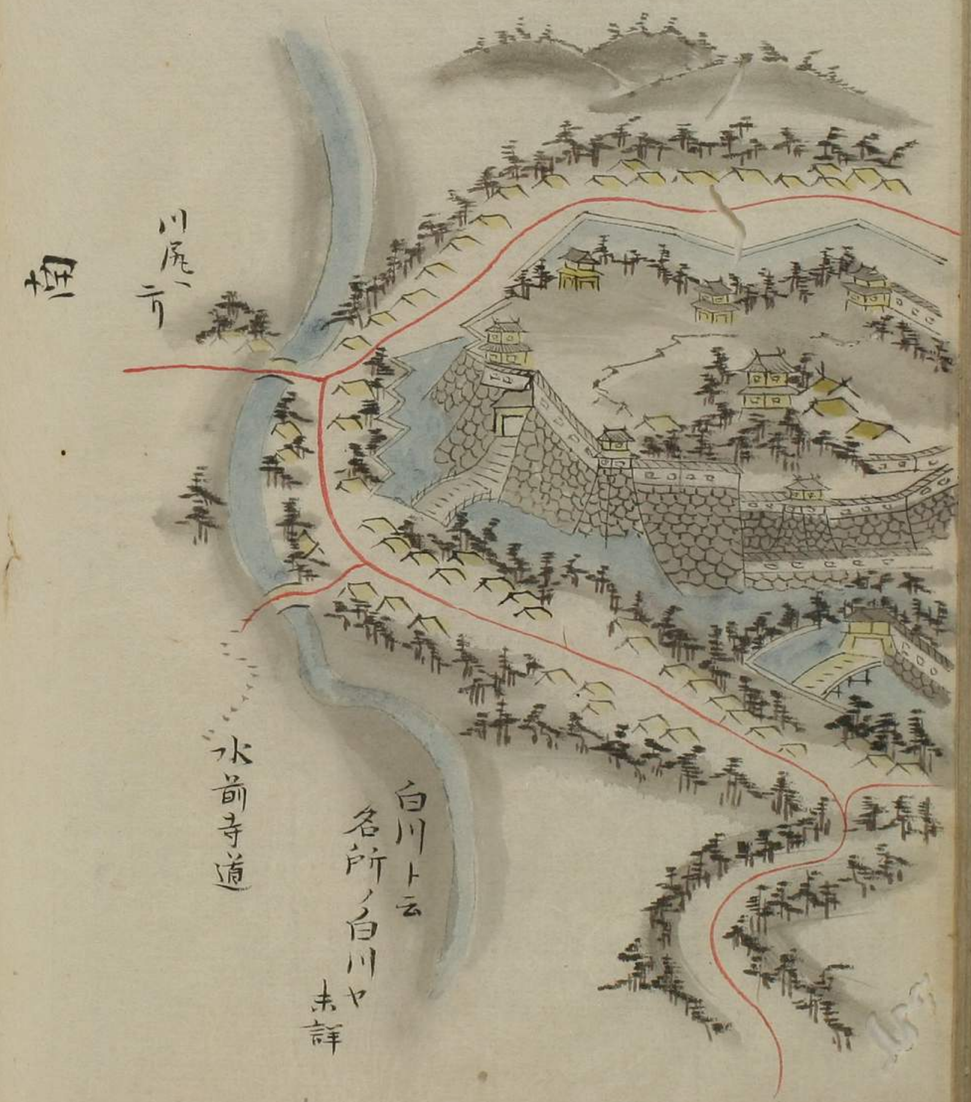
清正權現之社

社領千石別當寺と本妙寺
と也大寺三而寺下十四寺
二王門より社前まて八丁
左右櫻樹數百本華頃
と畏し辛を示給へ
数多ある家系左をなり
六月廿七日より廿八日まて
家来一万て國中の貴
賤群集一山沿華宗そ
此寺未寺未社をなり

九月廿日山八小山まて頃
の上ふ社を建しとの

熊本城
外見略図




極
川尾ヘ行
水前寺道
白川ト云
名所ノ白川ヤ
未詳

[illegible]

[illegible]流の中にて[illegible]の一の里
[illegible]堀を[illegible]
市中凡そ[illegible]二万軒[illegible]
中にて武家町商町[illegible]
[illegible]家居[illegible]堀の[illegible]
[illegible]堀の末を[illegible]
[illegible]堀をめぐりて[illegible]の堀を[illegible]
[illegible]市中[illegible]
堀[illegible]
[illegible]堀中[illegible]

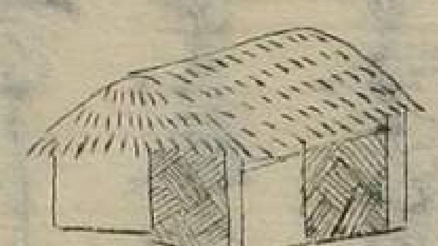
水[illegible]用[illegible]西の[illegible]
[illegible]山の[illegible]遠国[illegible]
[illegible]堀[illegible]
[illegible]堀[illegible]
双[illegible]堀[illegible]
凡[illegible]野[illegible]海道[illegible]
[illegible]毎[illegible]
[illegible]戦場の[illegible]
[illegible]遠[illegible]
[illegible]初年[illegible]

東西
東西權現公平日和爾の御名者りて法世ニて
も名聞きこと乃ち遠き者りしとなり 毛利元就
上杉謙信氏信玄乃合戦に如くなき智謀計略ありて
て義も加へり合戦の命中感せる事なりて四面
此外乃戦ひと十ふ七ヶ所なりしかくの合戦
にて感せる所稀なり清正權現と称して此地に
もなんなりなる事一ヶ所なりてなおわが世を経
さて市中なりなくなりしに風列 虎法備家
岡山なりも甚多虎ドして高人も多く高家なる

所なり明くは草野きの屋宇所なりて又蓋
町なりの巡りも虎法岡山なりなくて諸国人物
言語も者りしなくなりなくて西部の国名なり
人物なる報虎市なる大儒なりて学なる流行
医師なる樹書なりなる医外市中なる人物
なるなりなる鑑賞の地なる移し西なる場なし
れ名匠なる事なる世に称せる世なる知る事なる
明なる
名虎なる知なる河辺に乃なの立品なりて
地なるなる稀なる

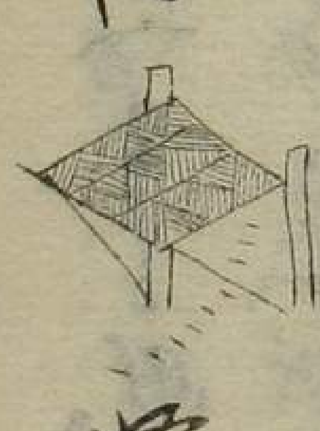
談ずるに切なる名法なりとて此事をなかりし
阿蘇乃手は阿蘇嶽一の辺んし大津(シズ)志は始と然に
より大津まで京氏道を半道ましで街道の左右に
捨雨ぐらりたる左右に石垣あり並木を那し大御まで
杉もみせ外雑樹も多し云々少清正胡右衛門
しそ此道をつくりるらし云々これ故より道も狭く
せば並木もまきれて これより乃ち日本第一の
いくえなりせし街道に古字御余勤交代氏
こらの節より東の方徳海の所往来にする所となん
昔者小家も多く茶店も繁まて淋しき侍し大津

三百軒ばかりの在町也大津より東二里半ばかりに
と云登りかゝり一里半の坂を峠とし西の方を肥後
肥前の海をも見る阿蘇郡に入りてこ一里のうちな
たり風土大ひに綿りて甚だ広し人家稀にて百姓家は
戸をたてて家ぐ稀に家を稀まで竹の戸を用ゐる
しても宿はまでも見ゆる家作の軸也



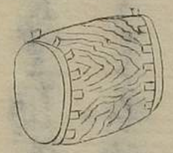
草葺き竹のわらかにて稀にまもえりを
こし壁にぐりかやをわらでつけてうち乃でも
上方の辺の百姓家のとし

肥後の小町湯くまでより入口に



此ら竹の作の[illegible]

戸を開かし身をしに石一ちも町のうちとて
ちりとて盗心なきものなれども貧の家居る
盗賊のことをいつとなく所の人
中ゝ命の製ことに及ばず上方



かくのごとくこれを以て世をすぐ
その心くるしきことなり

阿蘇一郡にて今二万八千石の地にして東西九里
南北九里ありしかども山ばかりにて東部も野なる
無宿にて以ての武士のごとく稼せ
しとかの人の為にて

所に人の為にて周旋せしかの蘇郡にて十余
石の地なれども平地にて人のりにくく
高き山にして四里四方にして年ごとに稼
ぶ米にて飢死せしの数多きことなり
寛政年間に住職の家一ツにて
世の浮沈をなす南の寺を貧者にて法師法
華経を唱ふるの中にかの蘇郡
の三千戸の民家数人飢餓に死にて数
ばかりなりしの者も虚説にはんなり
年ごとに身を亡ぼせんとて老

阿蘓ヶ嶽之図

南

阿蘇山をさしてのほる山はことにさかしくも
も煙る山にてこそ名を世に知られし也　煙る山を
硫黄山にして臭気甚し　数年煙をたて大山なれとも世
よりも奇にして造物者のしわざ年月にして見る事
はまたなし　小かしこき人の癖として天地の事に
いろいろの理をつけ理をとかして大言をいふ
まつ何事も其の中にふしきに見ゆれけれはあまり
分別して世に知るへし　坊中の所より
休所のこやまて也　道六十余町としいふ休所あり
てそこに煙を吹出す　洞穴百有余見えつく

煙を見て驚いかに事しげに人を数をつくし
畑に焼いかりしを高貴の人のなりをそなへて
居を煙くりこれを見て煙を入れまと
五人の和尚にかの年より四年以前にうどれ
なりて煙に交りて居をおかれまいの田にして
此と云ましつるを山のうち雷のうちにかり
ひとりの藤邪の村に逃げんやせんやと
家を集りかしこに群集して四いそせんと
人々申しまさるまいすまりの家宅を焼て
他方へ移かぐ死なんと一説に此と云せ

うちにいつとなく山のうちに石の安坐の思ひ
をりに生ずを山を見れば村をいとみ死せ
事を見ることを所のうりをとなりをきき
山の石を示して他方の石をと見て岡せる所の
為不為山をとぼりしかるまいり
山形を嶮かして信州清水山を造り構に出
寺井家宅を居をし移して紙屋ようを百六十石
三石寄附をなり師中と云屋の町をなり家やも
入へ作りし氏山の開祖を元三大師をいつ
の安穏をなしをなりをなりを祈る

迴ると宮と称して山の垂を分て獨立せる
ものと解せば
城中の市はこれより南の谷へ下れる湯谷
と云ふ所へ湯地を温泉とこゝにてそれ
より山にかゝる四山に移せるより此山の岩を
大小共に四ツにして九きをおしゐ此所へ
此城中の町を四石と称せり小なる石を云ふ
ひくむ乃ち石ひけるせしと肥をたゞ
る奇石乃ち山名の様より西のことを
千里ヶ浜といふ二里の荒浜と云人の海辺より

恒法寺宮に昔世を伝ふる新田
人里のそこまでなりと其をたゞして吉田と情をまき
城中の町より阿蘇の宮へ二里

名高阿蘇の宮蘇宮ゆゑ公極せし御代こゝに
第九の阿蘇にてこゝに文殊社乃ち
小草生へ前にて又幸浦の口社と上方筋の社にて
又此を小社にて伊勢と同をもつてせんや
うかし鶴の所に鎮座しいと社をいつま結
つゝ山海に泥雑名こゝにて尊と肅と

せざるを信じ乳もしかくれものまで此社の地を
田家乃中にて淋しさいはんかたなし此所
より此所まで千石の寄附にて三百石大宮司の合
地とし残る七百石を二十一家の社人九人の巫女配分
して合地とし此所のうちに別せし武職の子孫
今以て大宮司より社人の長たり此家へ立寄りおし
の田畑に来路ならんやともかく宰所に
訴ゝ辺鄙なれど人物は俗物にあらず出物なき
物清らかなりし
是より肥後の界に行陵はしく坂なり

坂多し坂多しに漸りとて是より坂多し入
まで行坂まで嶮岨のわつか一里半肥後の地を肥後の
むかう所にて九州を南海の帯せし地
て膝のごとし四國阿蘇郡を見渡れを
年にかりて雪の積る事七八尺におよぶといふ人
わかのかき事と雪を山兵のかまへなりて
地もなきにたり事ゝ九州のうちまで雪の
八尺もつむとき様き事に左家に入りて見れ
家を閉て止宿する事なりし其まま牧宝
ところといふ所なし其草を大寛乃下へ入しく

[illegible]
[illegible]
[illegible]

然るに山庫まで乃宿
瀬戸より山庫迄ハ武道
なるを一ツ薩摩領ハ山庫迄ハ
山庫より大隅町まで南に山庫川と云
しの川と町の中に温泉
ありて温泉好にて
地獄入湯せる人の
多し
南乃関に
南乃名所
山庫の関と云所まで
川を境川と云

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ملك